（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　４８（当初計画：No.　４９）　　東北　森林管理局

取　組　名	間伐材の利用促進と木材の安定供給(継続)
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	イ－１５、カ－２２・２３・２４
実施箇所及び実施日	平成２５年度素材・立木販売意見交換会 平成２５年４月１９日(金)
取組の背景及び必要性	森林整備に伴う間伐材の利用促進収入の拡大を確保する必要があること、また関係事業体のニーズ・要望があることから、国有林材の需要・販路の確保・拡大を図り、併せて地域における素材生産事業体の育成に取り組む必要がある。
取組の内容	・年間の立木、素材の供給見通し等の説明会を開催した。 （開催日　平成２５年４月１９日） 参加者　素材生産業及び木材加工業の２０社 ・平成２５年度安定供給システムの年間計画に基づき、木材会社等へ素材を供給した。（約 18,811m3 ） ・土木工事等へ積極的な使用を実施した。 （約 39m3「素材換算値使用」）
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署、資源活用課
連携協働相手先・役割	
取組の結果、反響、今後の課題等	木材産業関係者へ安定的、計画的に間伐材等を供給することができた。 また、木材利用を拡大することにより低炭素社会へ貢献することができた。特に需用者等の拡大を図る必要がある低質材等については、安定供給システムによる販売に努め地域の担い手の育成につながっている。 今後も意見交換会を開催し、業界のニーズ、要望等を把握するなど情報の共有が必要であると考える。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	関係業界と情報交換を行うことにより国有林の取組みが理解される。 森林整備により発生する間伐材等の安定的・計画的な供給体制が構築でき、地域振興に寄与することができる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	間伐材の利用促進と木材の安定供給（継続）

意見交換会での署長挨拶

意見交換会の様子

間伐材選別巻立の様子

治山工事での木製布団籠の使用

林道工事での木製布団籠（長格木枠工）組立、施工中の様子

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　４９（当初計画：No.　５０）　　東北　森林管理局

取　組　名	間伐の推進を図るための現地検討会の開催(継続)
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	アー１１
実施箇所及び実施日	岩手県二戸郡一戸町西岳国有林１７０６林班ほか 平成２５年８月２９日(木)
取組の背景及び必要性	森林・林業再生プランによる、民有林との連携による集約化施業を推進するため、国有林で取り組んでいる効率的な列状間伐の導入及び高性能林業機械を活用した間伐作業システムの定着を図るため、流域活性化協議会、県等と連携し、現地検討会の開催や技術研修会を開催し「見える化」を推進する。
取組の内容	馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催により、高性能林業機械を有効活用した作業システム及び、林地傾斜から見た効率的路網の配置について､間伐現地検討会を開催した。 森林管理署担当者による事業内容の説明の後、請負事業体のオペレーターによる高性能林業機械での間伐作業及び、森林作業道作設の実演と作業システムの説明を実施した。 また、効率的な間伐作業システムの普及、定着を図るための意見交換を行った。 参加者：馬淵川上流流域森林・林業活性化センター、岩手県関係市町村、林業事業体等　　計６５名
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	馬淵川上流流域森林・林業活性化センター 県（二戸農林振興センター）
取組の結果、反響、今後の課題等	高性能林業機械での実演と意見交換により技術の向上・普及が図られた。 また、間伐の推進に向けた、高性能林業機械導入による効率的な作業システム及び国有林と民有林の連携による集約化施業団地の設定等について、森林所有者等に理解してもらうことが必要であり、継続した現地検討会の開催について関係者と協議しながら進めて行くことが必要である。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	民・国連携した間伐現地検討会の開催により、効率的かつ低コストな作業システムによる技術の開発・普及が図られる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	間伐の推進を図るための現地検討会の開催（継続）

現地検討会での署長挨拶

現地説明の様子

ハーベスタによる間伐実演

ハーベスタによる造材実演

ザウルスロボによる作業道作設

検討会の様子

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　５０（当初計画：No.　５１）　　東北　森林管理局

取　組　名	天然更新を活用した牧草地の森林技術の開発（継続）
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	オー２０
実施箇所及び実施日	岩手北部森林管理署　矢神岳国有林、苗代沢山国有林 平成 21 年度～ 25 年度
取組の背景及び必要性	国有林に点在する永年使用されていない牧野を、天然更新を活用した森林化試験を導入し、早期に低コストな手法で森林化を図り、公益的機能の向上と野生生物との共生を図る森づくりを八幡平市と共同研究により進めている。
取組の内容	林野庁技術開発重点課題として、平成２１年度から５カ年計画で技術開発に取り組んでいる。２１年度に標高の異なる根石、丑山の２事業区に工法の比較ができる試験区を設定し調査を実施している。 なお、調査結果については、技術開発委員会や森林・林業技術交流発表会で発表している。 また、試験地において、岩手県を始め青森県からも視察団が訪れている。
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	八幡平市、森林総合研究所、林木育種センター
取組の結果、反響、今後の課題等	調査結果のとりまとめから天然更新の可能なゾーン・播種更新の可能なゾーン・人工植栽ゾーンや、急傾斜地で林地保全上そのままのゾーンを検討し、ゾーニングを図ってから実行していく必要がある。 今後はこの成果を基礎とした牧野全体の森林化計画案を具体化させ、地形や条件の違いによる有効な施工方法を選択し、現地実態に合わせた天然更新・播種・植栽などのゾーニングをしていく必要があり、今後さらに実施段階での検証を踏まえて、他所での参考事例となるように技術の普及を図っていく。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	八幡平市と連携し、広報誌やマスコミへのプレスリリースを行いＰ・Ｒすることにより、市民参加の育樹・植樹活動を展開し、行政と市民が一体となった活動が展開できる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	天然更新を活用した牧草地の森林技術の開発（継続）

トラクタによる掻起こし(耕運)

バックホウによる掻起こし(表土剥離)

播種翌年のミズナラ稚樹

天然ウリハダカエデ発芽状況

森林教室での播種体験

青森県牧野関係者の現地視察

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　５１（当初計画：No.　５２）　　東北　森林管理局

取　組　名	生物多様性保全のための森林整備・緑の回廊における野生動物の調査(継続)
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	カー２９・３０
実施箇所及び実施日	岩手県八幡平市安比岳国有林外 平成２５年５月中旬から２５年１１月上旬
取組の背景及び必要性	緑の回廊における有効機能の調査、国民のニーズに応じた野生動植物の保護に向けて多様で健全な森林整備を図る必要がある。
取組の内容	・緑の回廊（安比岳国有林内）に２４時間監視によるビデオカメラとセンサーカメラを設置、野生動物のモニタリング調査を実施した。 ・生息・生育する野生動物の広域的なつながりの確保（緑の回廊整備特別対策事業)、数多くの種類の野生動物が生きていくための餌場の確保（希少野生動植物種保護管理事業）をするために人工林において針広混交林化等多層構造の森林整備（抜き伐り）を、平成２５年度は合計で１２．６７ha 実施した。
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署、技術普及課
連携協働相手先・役割	森林総合研究所東北支所
取組の結果、反響、今後の課題等	過去に列状間伐を実施した林内において、クマタカの菜餌跡も確認されている。また「緑の回廊」設定指標種であるツキノワグマの姿が監視カメラ等により確認されているなど、野生動物の広域的な繋がりの確保も確認されており、森林総合研究所東北支所と連携したモニタリング調査及び生物多様性保全のための森林整備は国民からのニーズも高いことから引き続き今後も実施していくことが必要である。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	署のＨＰや各種会議での報告、マスコミ等へのプレスリリースにより国有林が取り組んでいる緑の回廊、生物多様性の取り組みについてＰＲができる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	生物多様性保全のための森林整備・緑の回廊における野生動物の調査（継続）

監視カメラ（夜間用）

緑の回廊の動物「ツキノワグマ」

緑の回廊の動物「カモシカ」

緑の回廊の動物「ニホンシカ」

緑の回廊整備特別対策事業

希少野生動植物種保護管理事業

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　５２（当初計画：No.　５３）　　東北　森林管理局

取　組　名	市町村・地域住民と連携したフィールドの整備（継続）
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	カー３２
実施箇所及び実施日	岩手県八幡平市安比岳国有林４７０い林小班外 平成２５年１０月３０・３１日（水・木）
取組の背景及び必要性	地域住民からの森林環境、自然環境に対するニーズ、要望がさらに高まっていることから、市町村、地域住民と連携しフィールドの環境整備を行う必要がある。
取組の内容	八幡平市と協定締結している「あっぴ高原遊々の森」中のまきば・焼野まきば・奥のまきばにおいて、１０月３０日（水）３１日（木）ボランティア団体である「安比高原ふるさと倶楽部」及び八幡平市と共催で、ボランティア団体や地域住民合わせ２日間で約１００名が参加し、芝草原に侵入したかん木・ササの刈り払い焼却等の環境整備を実施した。 また、これに合わせて、ぶなの駅において、安比高原ふるさと倶楽部及び森林管理署・八幡平市から活動状況と次年度に向けた取り組みについてそれぞれ報告した後、参加者により、ヤナギラン、草原の植生の復活活動や整備活動のあり方について意見交換会を開催した。 また、３１日には、ボランティア交流会も実施された。
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	八幡平市、ボランティア団体等
取組の結果、反響、今後の課題等	遊々の森でのかん木の除去作業等の環境整備の結果、ヤナギランの群生が復活してきている。 「遊々の森」の協定を八幡平市と締結しており、引き続き草原植生の復元活動・イベントの開催を実行できるように地域住民・ボランティア団体による活動組織の強化を図る必要がある。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	八幡平市、地域住民、ボランティア団体に働きかけることにより、国有林と地元住民等との交流が深まり、開かれた国有林をＰＲすることができた。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	市町村・地域住民と連携したフィールドの整備（継続）

主催者挨拶

中のまきば環境整備状況

中のまきば環境整備状況

意見交換会の様子

焼野まきば環境整備状況

ボランティア交流会の様子

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　５３（当初計画：No.　５４）　　東北　森林管理局

取　組　名	森林共同施業団地における集約化施業の構築(継続)
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	ウ－１６
実施箇所及び実施日	岩手県二戸市浄法寺町下藤国有林４１１林班外（下藤団地） 岩手県八幡平市矢神岳国有林６０林班外（田沢団地） 平成２５年１１月１９日（火）現地検討会
取組の背景及び必要性	「森林・林業再生プラン」の方針に基づき、森林共同施業団地の協定を締結したが、この目的を達成するために集約化施業等について民・国共通した認識が必要となることから、民・国連携した技術研修会や､現地検討会の開催に取り組む必要がある。
取組の内容	森林整備協定を締結している「下藤団地」及び「田沢団地」において、集約化施業、路網整備についての共通認識を構築するため、協定を締結している八幡平市・浄安森林組合及び民有林所有者、林業事業体等も含めた現地検討会・意見交換会を開催した。 （参加者：３２名） また、平成２３年度に協定を締結したこの２箇所の森林共同施業団地で、平成２５年度は、実施計画に基づき協定箇所の間伐事業及び路網整備事業を実施した。
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	八幡平市、浄安森林組合 馬淵川上流流域森林・林業活性化センター
取組の結果、反響、今後の課題等	協定相手方である八幡平市、浄安森林組合と連携した、現地検討会、意見交換会を開催することにより、施業集約化や低コスト林業の共通認識を図ることができた。 今後は、集約化施業等について周辺自治体や森林組合等に情報提供とＰ・Ｒを行うと共に、新たな協定箇所の選定に取り組む必要がある。また、民有林と連携した施業の推進により、民有林との協調出荷などに取り組む必要がある。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	民・国連携した技術研修会等を開催することにより、集約化施業、路網整備等の効率的な作業システムの共通した認識、技術の普及が図られる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	森林共同施業団地における集約化施業の構築（継続）

意見交換会（下藤団地）

意見交換会（田沢団地）

現地検討会（下藤団地）

現地検討会（田沢団地）

現地検討会（下藤団地）

現地検討会（田沢団地）

（様式２）

平成２５年度　流域管理の取組結果表

No.　５４（当初計画：No.　５５）　　東北　森林管理局

取　組　名	コンテナ苗を活用した低コスト造林への取組（新規）
流　域　名	馬淵川上流流域
分類番号	オー２０
実施箇所及び実施日	岩手県二戸市シビックセンター（講演会） 二戸市浄法寺町御山第一国有林コンテナ苗試験地（現地検討会） 平成２５年１０月２９日（火）
取組の背景及び必要性	低コスト林業を推進するため、再造林費用の削減の有効手段であるコンテナ苗の技術開発と普及を図る必要がある。
取組の内容	森林・林業再生のためには、初期投資（造林コスト）を低く抑え、得られる林産物収入を高くする必要があり、低コスト林業を推進するため、再造林費用の削減の有効手段である、コンテナ苗の技術開発と普及を図る必要がある。 この低コスト造林の取り組みとして、コンテナ苗をテーマ「コンテナ苗から考える東北の低コスト造林」とした公開セミナー「講演会と現地検討会」を森林総合研究所と共同で開催した。（参加者：１０５名）
国有林担当部局・役割	岩手北部森林管理署
連携協働相手先・役割	森林総合研究所（東北支所、東北育種場、東北北海道整備局）
取組の結果、反響、今後の課題等	公開セミナーの開催により、技術開発に向けた試験研究・事業の取り組みのＰ・Ｒとコンテナ苗の普及拡大につながった。 多雪寒冷地である東北地方では、まだコンテナ苗の普及が遅れており、技術開発の取り組みと、民・国連携したコンテナ苗による低コスト造林技術の確立が必要である。
ＰＲの実施状況及びその期待する効果	地域関係者を対象としたセミナーや現地検討会を開催することにより、技術開発の取り組みのＰＲ及び、コンテナ苗の普及が図られる。

（様式２）

【参考資料】

取　組　名	コンテナ苗を活用した低コスト造林への取組（新規）

東北森林管理局長の挨拶

講演会の様子

講演会でのディスカッション

コンテナ苗試験地の説明

現地検討会の様子

コンテナ苗植付け体験